科研費による日韓/韓日対話企画第①弾　基調提案
2022.7.3　オンライン開催

これまでの漸進的無償化科研の経緯と日韓/韓日対話企画の提案

研究代表者：渡部昭男（WATANABE AKIO）大阪成蹊大学・特別招聘教授

神戸大学大学院人間発達環境学研究科・名誉客員教授

1. 日韓/韓日の共通した問題状況と課題意識

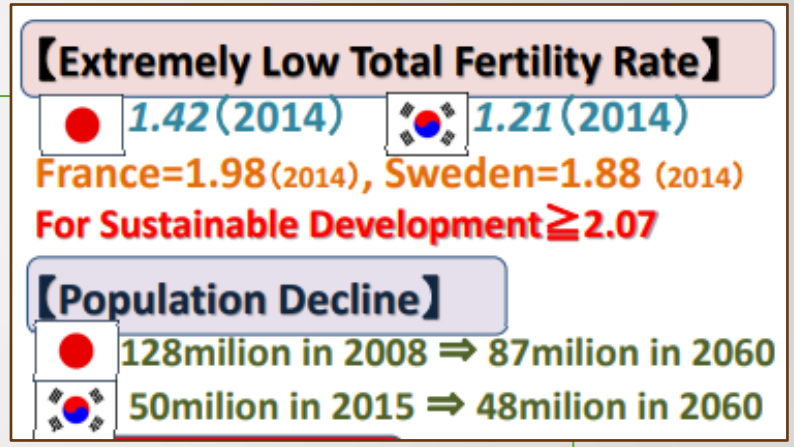
- **渡部昭男ほか2015**：日本における中等・高等教育における「無償教育の漸進的導入」の国際法規範のインパクト(Impact of an international legal norm of “the progressive introduction of free education” on secondary/higher education policy in Japan)**第16回ICER@ソウル大学**

☞ウェブ情報　http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90002882.pdf(ポスター)

- **渡部昭男2017**：日韓における無償教育の漸進的導入ー今後のアジア諸国における人口減少・少子化に抗する持続的発展戦略の一つとしてー(Progressive Introduction of Free Education in Japan and Korea: a Strategy for Sustainable Development against Population and Birthrate Decline in the Future of Asian Countries)**第17回アジア学術会議@マニラ国際会議場**

☞ウェブ情報　http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90004263.pdf(ポスター・発表原稿)

1－1)少子化･人口減少



【少子化】

合計特殊出生率TFR：日本1.42(2014)、韓国1.21(2014)

☞フランス1.98(2014)、スウェーデン1.88(2014)

(TFR：15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの)＊持続発展可能なライン≧2.07

日本1.34(2020)[東京1.13～沖縄1.86]／1.30(2021)

韓国0.84(2020)／0.81(2021)

【人口減少】

日本1.28億人(2010年国勢調査まで増加)／最大値(2008)

→2015年国勢調査から減少へ：1.27億人(2015)、1.26億人(2020)

韓国5千万人(2015)→2021年に初の減少へ

1－2)子育て教育の負担(感)増／学費の高騰

・「家族負担主義」の国：日本・韓国(小林雅之2012『教育機会均等への挑戦』東信堂)

①東アジアの家族負担主義／②北欧諸国のような社会負担主義／③欧米のような個人負担主義

・「高授業料・低補助」の国：日本・韓国(OECD2008)

● Both Japan and Korea is in the era of the high tuition fees, but with low support by scholarship. (OECD Indicators 2008)

学費の高騰(『文部科学白書2009』2010)

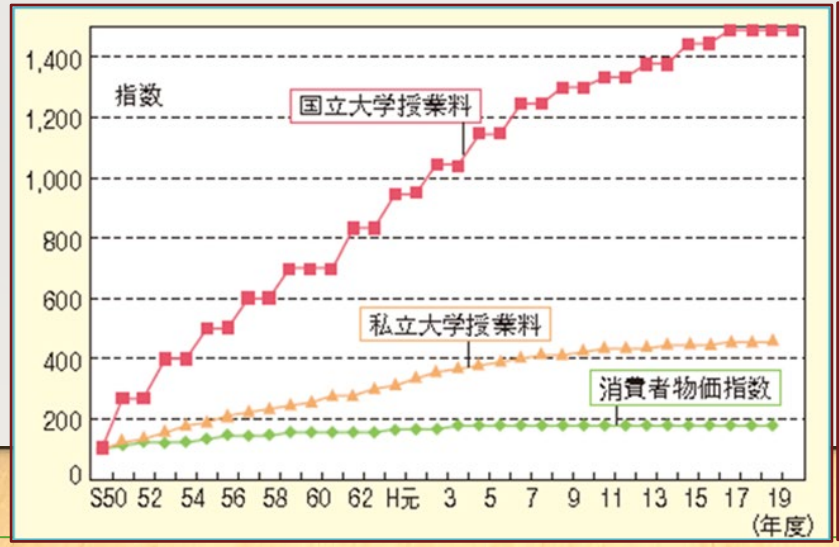
【Problem of Skyrocketing University Tuition Fees】

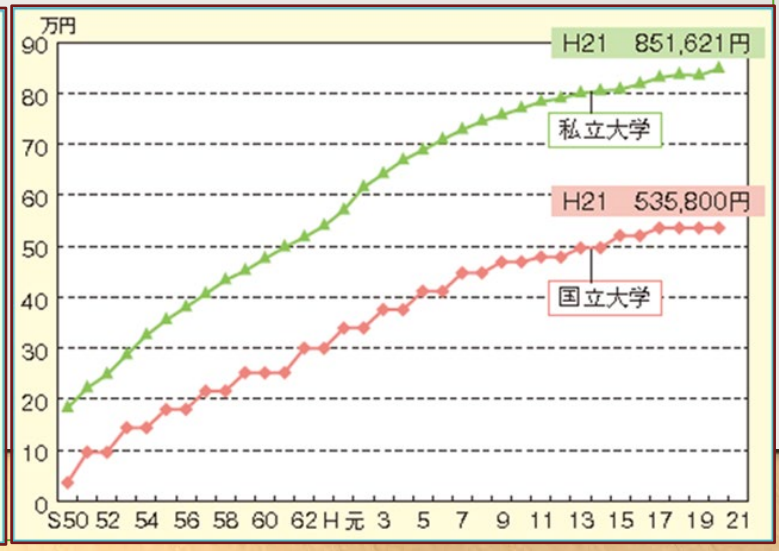
Strong Intention to go up Higher Education in Japan and Korea

消費者物価指数のそれぞれを，1975年時点を100とした場合，この30年間で消費者物価指数は約2倍の伸びに留まるのに対して，大学の授業料はこれを大きく上回り，

国立大学で約15倍(535,800円)，

私立大学で約4倍(851,621円)





2. 日韓/韓日に変化が:2022年は2012年から「10周年」

- **日本:「漸進的無償化」条項の留保撤回10年～2012.9.11:日本政府・外務省～**

https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kiyaku/tuukoku_120911.html

この通告により，日本国は，平成24年9月11日から，これらの規定の適用に当たり，これらの規定にいう「特に，無償教育の漸進的な導入により」に拘束されることとなります。

- **韓国:半額登録金運動・政策=国家奨学金制度の実施10年**

～2011:半額登録金運動＆政策表明／2012国家奨学金制度の本格実施～

KIM Hoonho2016報告

日 http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81010575.pdf

YEON Dukwon2020論考 ☞

日 http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012445.pdf

韓 http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012444.pdf

表２　年度別の国家奨学金Ⅰ類型の学生一人当たりの給付額の比較

単位：万ウォン

類型	基礎(注１)	１分位	２分位	３分位	４分位	５分位	６分位	７分位	８分位
2012 年	450	225	135	90	支援無し				
2013～14 年	450	450	270	180	135	112.5	90	67.5	67.5
2015 年	480	480	480	360	264	168	120	67.5	67.5
2016～17 年	520	520	520	390	286	168	120	67.5	67.5
2018～20 年	520	520	520	520	390	368	368	120	67.5

* 2018年以降の分位は区間である。
(注１) 基礎生活受給者と次上位階層の合計
(出典) 교육부「국가장학금 지원계획」, 2012-2020（教育部「国家奨学金 支援計画」, 2012-2020）

2－1)OECD:Education at a glance2021

- Figure C2.2. Total expenditure on educational institutions as a percentage of GDP, by source of funds (2018) Tertiary education p.247
  対GDP比率:高等教育の公費負担(緑色)＋私費負担(オレンジ色)

日韓の特徴

日本

公費負担0. 4%

私費負担1. 0%

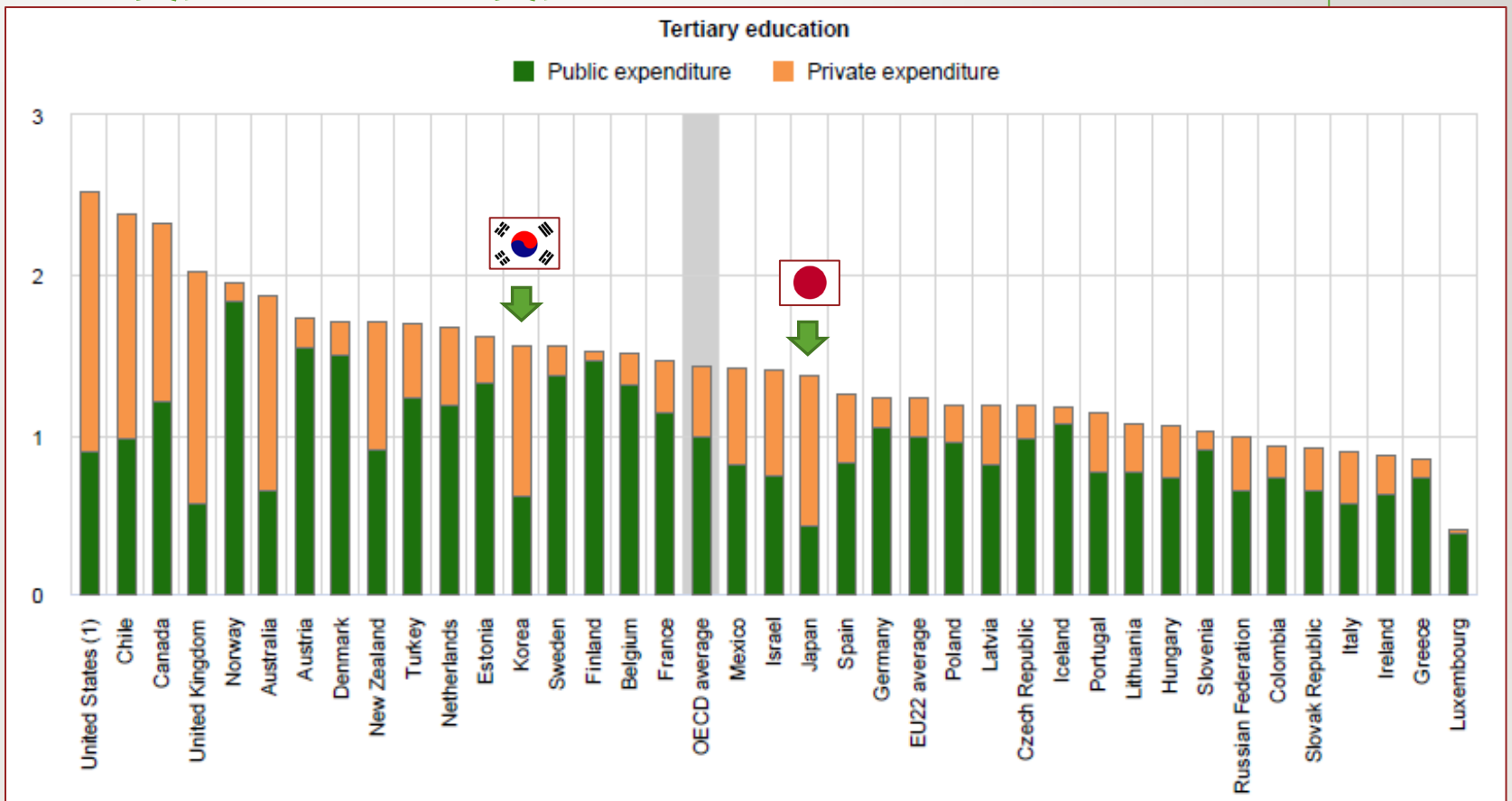
合計1. 4%

韓国

公費負担0. 6%

私費負担1. 0%

合計1. 6%



Note: International expenditure is aggregated with public expenditure for display purposes.
1. Figures are for net student loans rather than gross, thereby underestimating public transfers.
2. Primary, secondary and post-secondary non-tertiary education includes pre-primary programmes.
Countries are ranked in descending order of total expenditure on educational institutions as a percentage of GDP.
Source: OECD/UIS/Eurostat (2021), Table C2.4. See *Source* section for more information and Annex 3 for notes (https://www.oecd.org/education/education-at-a-

2－2)OECD：Education at a glance2021

- Figure C5.3. Annual average tuition fees charged by public institutions to national students enrolled in bachelor's programmes and share of national tertiary students benefiting from direct public financial support (academic year 2019/20)

学士課程の授業料（USDへのPPP換算）と公的財政支援学生比率（2019-20学校年度）

☞日韓をプロットすると

日本

授業料：約5,000 USD

公的支援：約10%

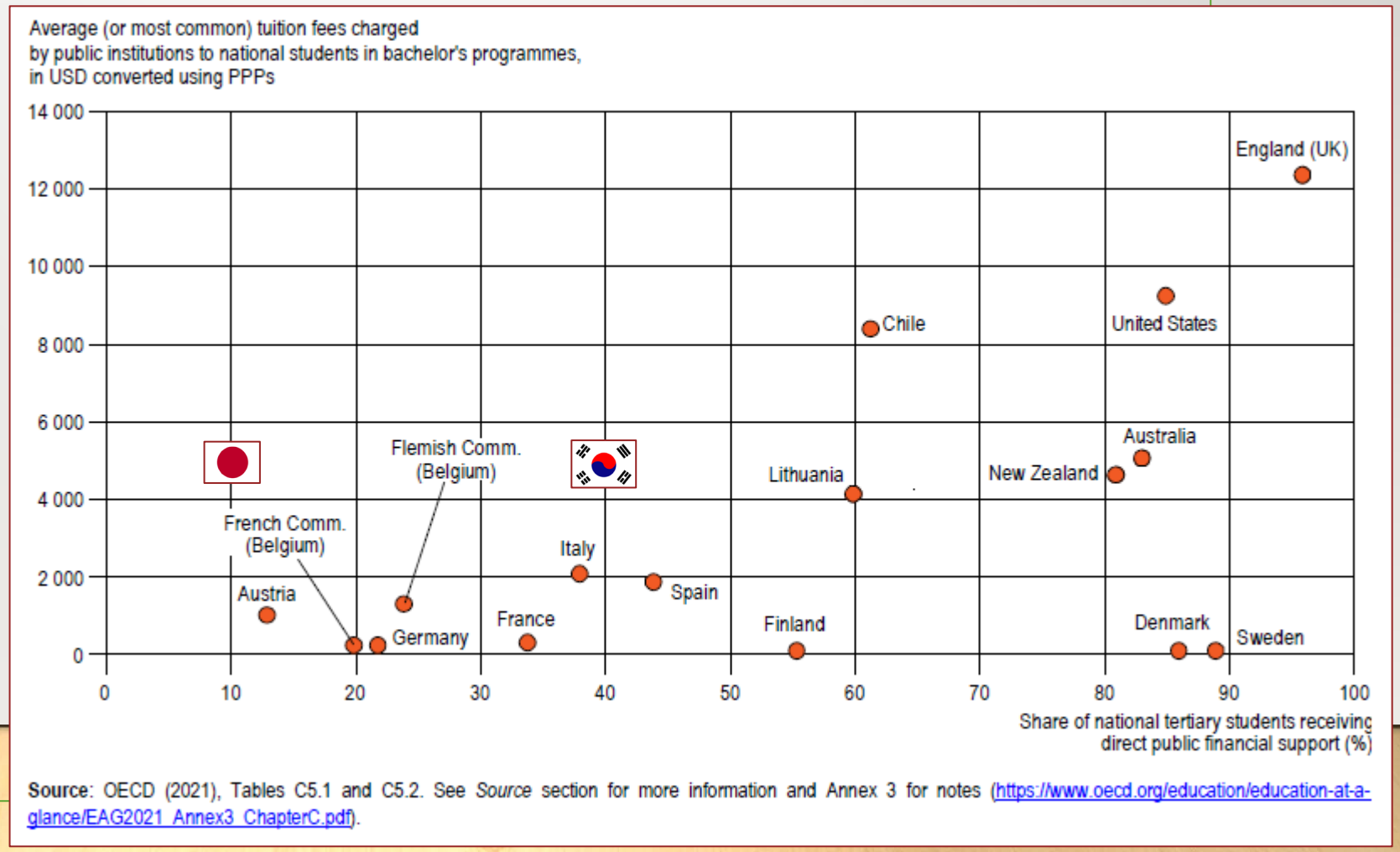
（2020-21支援法）

韓国

授業料：約5,000 USD

公的支援：約40%

（2019国家奨学金）



Source: OECD (2021), Tables C5.1 and C5.2. See *Source* section for more information and Annex 3 for notes (https://www.oecd.org/education/education-at-a-glance/EAG2021_Annex3_ChapterC.pdf).

3. 蓄積した論考を共有財産として日韓/韓日対話へ

2020年度：韓国側寄稿11篇＋21-年度：主に日本側寄稿12篇(＋α)

表１．論考11篇の一覧

番号		著者	肩書	タイトル	神戸大学学術成果リポジトリKernel
1	韓	박 거용 (Park Ker Young)	大学教育研究所所長 前祥明大学校教授（英語英文学）	한국 등록금 부담 완화 (점진적 무상교육 운동) 의 역사	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012442.pdf
	日	朴 巨用（パク・コヨン）		韓国の登録金負担の軽減（漸進的教育無償化運動）の沿革	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012443.pdf
2	韓	연 덕원 (Yeon Duk Won)	大学教育研究所研究員 （高等教育政策）	한국의 대학 등록금 부담 완화 정책	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012444.pdf
	日	延 徳元（ヨン・ドクウォン）		韓国の大学の登録金負担の緩和政策	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012445.pdf
3	韓	임 은희 (Im Eun Hui)	大学教育研究所研究員 （高等教育政策）	서울시가 시행하는 대학생·청년 지원 정책	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012446.pdf
	日	林 銀熙（イム・ウンヒ）		ソウル市が実施する大学生・青年支援政策	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012447.pdf
4	韓	임 희성 (Im Hee Sung)	大学教育研究所研究員 （高等教育政策）	'반값등록금'에 관해 국회에서 다뤄진 쟁점과 논의	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012448.pdf
	日	林 喜成（イム・ヒソン）		「半額登録金」について国会にて取り上げられた争点と議論	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012449.pdf
5	韓	정 병호（Jung Byoung Ho）	ソウル市立大学校 法科大学院教授 （民法）	문재인 정부의 대학 등록금 정책과 그 평가	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012464.pdf
	日	鄭 炳浩（チョン・ピョンホ）		文在寅政府の大学登録金政策とその評価	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012465.pdf
6	韓	정 병호（Jung Byoung Ho）		코로나 사태로 인한 한국 대학 등록금 반환 운동	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012466.pdf
	日	鄭 炳浩（チョン・ピョンホ）		コロナ事態による韓国の大学授業料返還運動	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012467.pdf
7	韓	김 훈호 (Kim Hoon Ho)	公州大学校教授 （教育行政・高等教育）	대학 등록금 부담 완화를 위한 한국 정부의 정책적 노력 및 관련 법률 변화	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012468.pdf
	日	金 訓鎬（キム・フンホ）		大学登録金の負担緩和のための韓国政府の政策的努力及び関連法律の変化	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012469.pdf
8	韓	홍 성태（Hong Sung Tae）	祥明大学校教授／前副学長 （経営学）	大韓民國 國家 奨學金에 關한 小考	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012470.pdf
	日	洪 成泰（ホン・ソンテ）		大韓民国国家奨学金に関する考察	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012471.pdf
9	韓	하 봉운 (Ha Bong Woon)	京畿大学校教授 （自治体教育行財政）	한국의 고등교육 점진적 무상화와 관련된 정부 및 지방자치단체의 제도 운영 현황 및 문제점	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012472.pdf
	日	河 奉鎭（ハ・ボンウン）		韓国の高等教育漸進的無償化と関連した政府及び 地方自治体の制度運営現況及び問題点	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012473.pdf
10	韓	김 성열（Kim Seong Yul）	慶南大学校教授 韓国教育学会会長 元韓国教育課程評価院長 （教育行政学）	1980年代 韓国에서의 差別的 教育 解消 主張의 再吟味： 教育機會의 平等의 觀點에서	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012474.pdf
	日	金 聲烈（キム・ソンヨル）		1980年代の韓国での差別的教育解消主張の再吟味： 教育機会の平等の観点から	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012475.pdf
11	韓	고 전 (Ko Jeon)	清州大学校教授 元韓国教育法学会会長（教育法）	한국의 고등교육 점진적 무상화 관련 법제정비 현황 및 특징	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012476.pdf
	日	高 鋳（コ・ソン）		韓国の高等教育の漸進的無償化関連法制整備現況及び特徴	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012477.pdf

2020年度:韓国側寄稿11篇＋21-年度:主に日本側寄稿12篇(＋α)

科研費研究（渡部）による2021-22年度寄稿一覧（12篇）2022.6.6現在

No	氏名Name	肩書き	タイトルTitle	日本語Japanes／韓国語Korean
1	戸塚　悦朗	弁護士、龍谷大学元教授（国際人権法）	「漸進的無償化」留保撤回10年を迎えるにあたって：国際人権法の立場から	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81012876.pdf
	TOTSUKA Esturo		<점진적 무상화> 유보 철회 10년을 맞이하여 : 국제인권법의 관점에서	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81013004.pdf
2	尹　　敬勳	流通経済大学教授（高等教育、比較教育）	韓国の大学主導の無償化戦略と大学経営	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90008566.pdf
	YOON Kaeunghun		한국의 대학 주도의 무상화 전략과 대학 경영	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90008567.pdf
3	尾崎　公子	兵庫県立大学教授（教育行政学、教育政策）	韓国における地域間教育格差の是正策	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90008815.pdf
	OZAKI Kimiko		한국에서의 지역 간 교육격차의 시정책	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90008856.pdf
4	光本　滋	北海道大学准教授（高等教育論）	日本における2020 年の学費減額運動の検討	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90008816.pdf
	MITSUMOTO Shigeru		일본의 2020 년 학비 감액 운동 검토	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90009015.pdf
5	阪本　崇	京都橘大学教授（経済学）	所得連動型教育ローンの検討：修学支援制度における普遍主義の実現へ	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90008902.pdf
	SAKAMOTO Takashi		소득연계 학자금 대출제도 검토 : 수학 지원 제도의 보편주의 실현으로	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90009185.pdf
6	丹羽　徹	龍谷大学教授（憲法学）	高等教育無償化と日本国憲法	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90008889.pdf
	NIWA Toru		고등교육무상화와 일본국헌법	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90009093.pdf
7	石井　拓児	名古屋大学教授（教育行財政、教育法）	高等教育授業料をめぐる国際的動向と高等教育財政研究の理論的課題：アメリカの授業料無償化政策の現段階と公私混合負担の日本的特質をめぐって	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90008951.pdf
	ISHII Takuji			
8	尹　太佑	北海道大学院生（高等教育論）	韓国における高等教育財政の安定的確保に関する論議：高等教育財政交付金法案を巡る国会審議から	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90008949.pdf
	YOON Taewoo		한국 고등교육재정의 안정적 확보에 관한 논의 : 고등교육재정교부금법안에 대한 국회 논의를 중심으로	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90008950.pdf
9	鳥山まどか	北海道大学准教授（教育福祉論）	日本学生支援機構奨学金の現状と課題：高等教育費無償化の観点から	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90009089.pdf
	TORIYAMA Madoka			
10	重本　直利	龍谷大学元教授（経営学）	国際人権規約（A規約）批准と高等教育の漸進的無償化 ーその経緯および取り組みと今後の課題ー	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90009184.pdf
	SHIGEMOTO Naotoshi			
11	細川　孝	龍谷大学教授（経営学）	「教育から労働への移行」を念頭においた授業の実践	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90009183.pdf
	HOSOKAWA Takashi			
12	水岡　俊一	参議院議員	中等・高等教育の漸進的無償化への道	
	MIZUOKA Shunichi			

科研費基盤研究(C)2019-21

3－1）高等教育における経済的負担軽減及び修学支援に係る法・制度・行財政の日韓比較研究

- 高等教育費負担を巡り、日韓はともに家族負担主義、高授業料・低補助の国に分類されてきたが、転換しつつある。両国は、共通した国際人権法（A規約13条：教育への権利、漸進的無償化義務）、類似した憲法（能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利）等を法規範として有する。独自開発した「漸進的無償化プログラム（高等教育版）2017」の枠組みを用いて、経済的負担軽減及び修学支援に係る制度・行財政（国家政策・地方施策）を把握し、その意思決定過程を分析する。その上で、日韓の政策転換の特徴（共通性・相違点）を明らかにするとともに、法規範を源泉とみる「法規範⇒意思決定⇒制度・行財政＝政策転換」という「問い」を検証する。

科研費基盤研究(C)2022-25

3－2)コロナ禍における高等教育の経済的負担軽減及び修学支援に係る日韓比較研究

- 高等教育を巡り日韓はともに家族負担主義、高授業料・低補助の国に分類されてきたが、転換しつつある。両国は、共通した国際人権法(国際人権A規約13条：教育への権利、漸進的無償化義務)、類似した憲法(能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利)・教育基本法(日：経済的地位による差別禁止、経済的理由による修学困難者への奨学の措置／韓：奨学制度・学費補助制度等の樹立)を法規範として有する。基盤研究(B)2015-17、同(C)2019-21で把握済みの動向を更に追いつつ、独自開発した「漸進的無償化プログラム(高等教育版)2017」の枠組みを用いて、引き続き日韓の①経済的負担軽減及び修学支援に係る法制度・行財政を把握し、②2020年に新たに出来したコロナ禍がいかなるインパクトを与え実際に国家政策・地方施策がどう対応したのかを比較検討する。その上で、両国のwith/afterコロナにおける高等教育の経済的負担軽減及び修学支援の在り方(理論課題及び具体方策)を探る。

科研費基盤研究(B)2015-17

3－3)後期中等・高等教育における「無償教育の漸進的導入」の原理と具体策に係る総合的研究

☞日韓/韓日対話の前史と継承すべき視座

- 本研究では、日本政府が2012年に留保撤回した国際人権A規約13条(教育への権利)2項(b)中等教育・(c)高等教育の「無償教育の漸進的導入the progressive introduction of free education」原則に着目する。同原則と日本国憲法26条(教育を受ける権利／能力に応じて、ひとしく)及び教育基本法4条(教育の機会均等／経済的地位による差別禁止／奨学の措置)等を編み直して、義務教育後の後期中等・高等教育の権利性と無償性を原理的に問い直す。加えて、高校大学等の教育拡大を推進する国の政策・地方自治体の施策・法人の経営を分析し、背後にある現状認識や若者(人材)育成・地域創生・貧困対策・学生(生徒)確保等の論理を析出する。さらに、家族負担主義から転換しつつある韓国とも比較する。これらを通して、「無償教育の漸進的導入」へ転換する具体策を提示する。

研究構想図2015-17：基礎理論、政策･施策･経営、国際比較

《研究構想図》

後期中等・高等教育における「無償教育の漸進的導入」の原理と具体策

【基礎理論研究グループ】	【政策施策経営研究グループ】	【国際比較研究グループ】
2015：＊後期中等・高等教育の権利性・無償性の探求	＊高校無償化法：①国の政策動向／②自治体の施策＋学生の意識調査／③法人の経営	＊韓国における政策・施策の転換の経緯と論理
2016-17： ＊Cost-sharing 論・受益者負担論への対抗軸	＊サステイナブル社会における生徒学生・若者の支援策	＊韓国における生徒学生・若者の支援策、法人経営

- 2016.01.23(早稲田大学)第4回日韓シンポジウム:韓国の国家奨学金制度から学ぶ(Kim Hoonho／Yi Suyeon)
- 2016.3-6:神戸大学に招聘教授として滞在(Park Keryoung)
- 2016.08.23(北海道大学)特別企画(1)韓国の高等教育をめぐる動向と情勢(Song Seonyeong)
- 2016.11.12【神戸大学大学院人間発達環境学研究科 学術Weeks2016年度企画】韓国における子どもの権利保障と無償教育(Ko Jeon／Ha Bongwoon／出羽孝行)
- 2016.12.17(キャンパス・イノベーションセンター東京)特別企画(2) 韓国における「大学構造調整」政策と大学評価(Yoon Kaeunghun)
- 2017.02.11(フォーレスト本郷)日韓シンポジウム:学費半額化と若者支援をめぐる都市・大学のガバナンス―首都ソウルvs.東京(Park Keryoung／Jung Byoungho)
- 2017.08.11(北海道大学)特別企画(1)韓国の大学再編―ガバナンス・学長選考・教授会(Park Keryoung)
- 2017.11.04(KKR中目黒ホテル)特別企画(2)韓国における新政権の主要教育政策(Kim Hoonho)
- 2017.10-2018.1:神戸大学に招聘教授として滞在(Hong Seongtae)
- 2018.01.28(早稲田大学)日欧シンポジウム:国際人権A規約第13条「教育への権利」(Fons Coomans)
- 2019.6.8(神戸大学)科研2019特別企画:文在寅政府2年、教育政策の変化:教育の公共性強化及び高等教育の質の向上政策を中心に(Kim Hoonho)
- 2019.8.6(日本教育学会第78回大会)日中韓教育学会会長シンポジウム(Kim Seongyul)

☞漸進的無償化プログラム(高等教育版2017)を手がかりに

漸進的無償化プログラム（高等教育版）の枠組み　（渡部昭男2017）

	区分	国レベル	都道府県レベル	市区町村レベル	大学法人・学校法人レベル	民間レベル
A 学費	A1：学費自体の軽減化					
	A2：学費減免制の拡充					
B 奨学金・学生ローン等	B1：給付型奨学金の拡充					
	B2：無利子学生ローンの改善 ・成績要件の緩和 ・所得連動返還型 ・返還免除/・猶予 ・救済制度　等					
	B3：有利子学生ローンの縮減					
	B4：学内勤労奨学金等の拡充 ・学生雇用 ・SA、TA、RA　等					
C 修学支援	C1：学習費の支援 ・教科書代補助 ・実験実習費補助 ・留学費補助 ・学会活動費補助　等					
	C2：学生生活費の支援 ・学生寮の整備・拡充 ・家賃補助（学割拡大を含む） ・交通費補助（学割拡大を含む） ・まかない費補助（百円朝食）等					
D 就労支援	D1：就労支援 ・就活・インターンシップ費支援 ・起業経費支援　等					
生活保障	D2：生活保障 ・生活保護制度 ・若者手当／年金　等					

☞この枠組みに日韓の政策等を落とし込むと見えてくるもの

日韓ともにA：学費・B:奨学金学生ローン・C:修学支援・D:就労支援・生活保障に係る政策施策事業が国・自治体・法人・民間によって展開されている⇒しかし「A:学費自体の軽減化」への取り組みは弱い

区分	小区分 ／ レベル	国	地方自治体	大学法人・学校法人	民間
A 学　費	A1：学費自体の軽減化	韓：大学入学金廃止（国公立2018、私立-2022） 釜山大学教授会：地方国立大学無償教育案（2019） 地方国公立大学の優先的無償論議（2020） 高等教育財源の安定的確保論議（-2020）	日：公立大学入学金の域内者への安価設定 私立の公立移管による学費抑制など 韓：ソウル特別市・市立大学費半額化（2012-）		
	A2：学費減免制の拡充	日：大学等修学支援法・低所得層（2020-） B1を含む2020国地方予算総額5,274億円51万人 ＊コロナ家計急変学生への対応拡大（2020） ＊コロナ対応減免を独自に行う法人等助成（2020） 韓：大学非対面教育緊急支援事業（2020） 春学期学費返還訴訟（2020）憲法訴願・民事訴訟	日：大阪府/市立大・一部無償化（2020-） 兵庫県立大学・減免措置の拡充（2020-）	日：東大・年収400万円以下家庭への授業料免除（2008-） 一部法人・優秀学生への学費減免 一部法人・コロナ困窮学生特別減免（2020）	
B 奨学金・学生ローン等	B1：給付型奨学金の拡充	韓：国家奨学金（2012-） 中間層へ拡大＆金額等拡充 2019予算約3,600億円94万人 日：先行実施（2017、約15億円2800人） 大学等修学支援法・低所得層（2020-）	日：育英会等による給付型奨学金 韓：江原道・道給付型奨学金（2012-） ソウル特別市・種々の奨学金	日：一部法人・優秀学生への給付型奨学金	日：民間による給付型奨学金
	B2：無利子学生ローンの改善	日：所得連動返還型奨学金（2017-）	日：育英会等による奨学金 特定職種への学資金制度・返還免除	日：一部法人・学資金制度	日：民間による学資金制度
	B3：有利子学生ローンの縮減	韓：所得連動返還型奨学金（2010-）利下げ	日韓：自治体による利子補填事業		
	B4：学内勤労奨学金等の拡充			日：一部法人・学内勤労奨学金など（SA・TA・RA）	
C 修学支援	C1：学習費の支援	日：コロナ困窮学生支援緊急給付金（2020）	日：海外派遣・留学費支援など	日：一部法人・コロナ困窮学生独自支援（2020） 韓：一部大学・非対面教育関連学生独自支援（2020）	
	C2：学生生活費の支援	韓：大学寮の増設・収容人数の拡充	日：育英会等による学生寮・県人寮	日：一部法人・まかない支援、家賃補助、交通費補助	日：コロナ困窮学生食糧支援
D 就労支援 生活保障	D1：就労支援	日：地方創生奨学金返還支援制度（2016-）	日：同左制度の活用（2016-） 2019：32府県・355市町村 地元インターンシップ・IJUターン・起業補助 コロナ困窮学生アルバイト雇用（2020） 韓：ソウル特別市・青年手当（2019-）住宅支援	日：一部法人・インターンシップ補助、資格取得支援	
	D2：生活保障	日：生活保護世帯子弟への進学支援 世帯分離の後も住宅扶助継続（2018-） 進学準備給付金（2018-）			

4－1)対話企画第①弾:Kim Seongyul & Ozaki Kimiko

科研費による日韓/韓日対話企画（オンライン／2022 年度 その１）　第①弾

主　　催：渡部昭男（研究代表者）大阪成蹊大学（特別招聘教授）／元神戸大学
基盤研究(C)課題番号 19K02864（2019-21 年度）・22K02702（2022-25 年度）
高等教育における経済的負担軽減及び修学支援に係る法・制度・行財政の日韓比較研究
コロナ禍における高等教育の経済的負担軽減及び修学支援に係る日韓比較研究

日　　程：２０２２年７月３日（日）（開場 12:45）13:00～16:00

企画テーマ：日韓/韓日対話企画の提案と第一弾企画の開催

韓国における教育機会平等保障の主張と運動

――韓国教育学会キム ソンヨル前会長の論考をもとにした対話――

과학연구비 한일/일한 대화 기획（온라인/2022 년도 제 1）　제①탄

주　　최：와타나베 아키오（연구 대표자）오사카세이케이대학（특별초빙교수）/ 전 고베대학
기반연구(C)과제 번호 19K02864（2019-21 년도）・22K02702（2022-25 년도）
고등교육의 경제적 부담 경감 및 수학 지원에 관한 법·제도·행재정 한일 비교연구
코로나 상황 속 고등교육의 경제적 부담 경감 및 수학 지원에 관한 한일 비교연구

일　　정：2022 년 7 월 3 일（일）（개방 12:45）13:00~16:00

기획 테마：한일/일한 대화 기획 제안 및 제 1 탄 기획 개최

한국에서의 교육기회 평등 보장 요구와 운동

―한국교육학회 김성열 전 회장 논고를 바탕으로 한 대화―

4−2)対話企画第②弾:Ko Jeon & Niwa Toru & Yoon Kaeunghun

科研費による日韓/韓日対話企画（オンライン／2022 年度 その 2）　第②弾

主　　催：渡部昭男（研究代表者）大阪成蹊大学（特別招聘教授）／元神戸大学
基盤研究(C)課題番号 19K02864（2019-21 年度）・22K02702（2022-25 年度）
高等教育における経済的負担軽減及び修学支援に係る法・制度・行財政の日韓比較研究
コロナ禍における高等教育の経済的負担軽減及び修学支援に係る日韓比較研究

日　　程：2022 年 7 月 30 日(土)（開場 12:45）13:00～16:00

企画テーマ：

高等教育無償化に係る法制と諸方策

――前韓国教育行政学会会長／元大韓教育法学会会長コ ジョン教授の論考をもとにした対話――

과학연구비 한일/일한 대화 기획（온라인/2022 년도 제 2）　제②탄

주　　최：와타나베 아키오（연구 대표자）오사카세이케이대학（특별초빙교수）/전 고베대학
기반연구(C)과제 번호 19K02864（2019-21 년도）・22K02702（2022-25 년도）
고등교육의 경제적 부담 경감 및 수학 지원에 관한 법·제도·행재정 한일 비교 연구
코로나 상황 속 고등교육 경제적 부담 경감 및 수학 지원에 관한 한일 비교 연구

일　　정：2022 년 7 월 30 일(토)（개방 12:45）13:00~16:00

기획 테마：

고등교육 무상화와 관련한 법제와 방책들

―전 한국교육행정학회 회장/전 대한교육법학회 회장 고전 교수의 논고를 바탕으로 한 대화―